令和8年度 1学年 授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号 306 開進第二中学校

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	○問題文を適切に読み取り、答えを導くことに課題がある。 ○自分の考えをもつことに課題がある。 ○学力テストの全校課題である「文章を相互に読み合い、根拠を示して推敲する活動（正答率44.9%）」において課題がある。	○問題文の読み取りを丁寧に行う。解答後に読み直し、問いに対して正対しているかを確認する時間をとる。また、複雑な問題文を文節ごとに区切り、読み落とさないよう声掛けを行う。 ○書かれていることだけで、文章を構成しないよう、叙述を根拠として、登場人物の心情や筆者の考えを捉えさせる。また、筆者の考えについて、自身の立場で考える時間をとり、根拠を明確にするため、図を使用しながら考えをまとめる。	
社会	○基礎的・基本的な知識の定着度に差が見られる。板書を写すことなど、「書く」ことに課題のある生徒がいる。 ○個人で思考したことを、対話的な学習を通して深めていくことに課題がある。 ○資料を多角的に捉え、根拠を基に自分の考えを深めることに課題がある。	○授業の最初に、前時の復習を、プレゼンテーション資料等を活用して行う。問題集を活用し、定期的に単元テストを行い、基礎・基本の定着を図る。書くことに関しては、重要語句を中心に書くことができるように声かけをする。生徒自身のタブレットを用いて資料収集や思考ツールによる情報整理を行わせる。 ○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、小グループでの話し合いでは、話しやすいテーマを掲げることで思考を深め、活発な話し合いになるように意識する。 ○ペアやグループによる話し合い・発表の場面を多く取り入れ、資料の根拠を示しながら意見交換・議論する学習活動を充実させる。	
数学	○基本的な知識や技能の定着度に差があり、受動的に取り組んでいる生徒が多く見られる。 ○基本的な計算力や知識を身に付けられても、既習事項を活用した発展的な問題や、思考・判断・表現を要する問題になると、身に付けていたはずの知識を活用できない生徒が多い。 ○全校課題である「図・式・表・グラフ・データを根拠にして説明する活動」において課題が見られ、特に度数分布表等のデータの活用（正答率 37.3%）や、文字式を用いた説明（正答率50.0%）において、根拠を明確にして表現・説明する力に課題がある。	○習熟度別授業を展開している中で、基礎クラスでは反復練習の時間を確保すること、定期的に小テストを行うことで基礎学力の定着を図り、自信を付けさせる。 ○習熟度別授業を展開している中で、発展クラスでは発展的な課題を扱う際、グループ学習やペア学習を取り入れ、度数分布表やグラフなどのデータ、文字式や図・表等を根拠として用いて、自らの思考過程や理由を相互に説明し合う言語化活動を具体的な場面（データの活用・文字式の利用等）で設定する。	

理科	○積極的に授業を受けようとする生徒が多くみられるが、実験を行った際の思考力・判断力・表現力に大きな差がある。 ○板書をすることに課題がある生徒がいる。	○実験を行う際、実験で注目すべき点や安全上の留意点を意識させる。また、実験結果（データ・表・グラフ）から根拠をもって考察・説明する活動を設定する。 ○スライドや机間指導のほか、タブレットを活用して実験データの整理や共有をスムーズに行う手だてを取り入れる。	
音楽	○器楽表現の技能に差が見られる。 ○音楽の構造についての知識や音楽の要素を知覚・感受する力に差がみられる。	○苦手意識のある生徒に配慮していろいろな難易度の発表曲を示し、視聴覚教材を用いて技能を高める。 ○表現の工夫や楽曲のよさについてプリントに記入させ、グループや全体で根拠（音楽の構造等）を交えて共有・対話する。	
美術	○技能や理解度に差があり、制作の進度や作品の完成度に差がある。 ○基礎的な技法を応用して作品制作に活かすことに課題がある。	○進みが遅い生徒に対しては、最低限の目標を明確に設定し基礎を完成させる。制作の進みが早い生徒が最後まで試行錯誤できるような手だてを考える。 ○基礎的な技法とセットで応用例を提示する。制作前に構想を練る時間を十分にとり、相互の鑑賞活動で工夫した点や根拠を伝え合う場面を設定する。	
保健体育	○ポイントをおさえた活動をすることに課題がある。 ○活動の中で、課題解決ができていても仲間に伝えたり、協力したりすることに課題がある。	○ポイントの提示や再確認をし、達成している仲間の動きを見本として見て学ぶ時間を設ける。見本動画を活用して、可視化させて理解を深める。 ○グループ活動を行い、実践する時間と教え合う時間を分け、課題の発見と解決に向けた言葉による対話・学び合い活動を設定する。	
技術家庭	○専門用語の理解や、作業における事前準備を含む技能向上に課題がある。（副）	○より丁寧に授業中に専門的な用語を説明し、繰り返し学習を行う。 ○作業工程や工夫した点について、タブレット端末やワークシートを用いて振り返り、次時の学習へつなげる。（副）	
外国語（英語）	○playとrunを一緒に使うなど、一般動詞についてのルールが身に付いていない部分がある。 ○学習内容はよく身に付いているが、英語でのコミュニケーションにおいて、指定以上のことは話す意欲は見られない。	○一般動詞を多用した例文を授業の中で提示したり、スライドで色分けをしたりすることで、主語や時制、文型に応じた動詞の使い方を、例文の比較を通して理解させる。 ○現在は、質問に対して 2 文話すことを目標にしているが、理由や具体例を加えて発話内容を広げる 3 文以上話すためのモデルを見せることや、内容の広がりを見て加点をすることなどで、意欲付けをする。	